

---

**おめでとうございます。あなたが当選されました**

柳 大知

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

おめでとうござります。あなたが当選されました

### 【Zマーク】

Z3557F

### 【作者名】

柳 大知

### 【あらすじ】

普通の主婦、ユキに届いた宅配便、品名は、「おめでとうござますあなたが当選されました」これが、ユキの運命を変えていく…

玄関のチャイムが鳴った。

主婦のコキは食器を洗うのを慌てて止め、手を雑に洗い流し玄関へ急ぐ。

「毎度…お届け物です」

「あつ！はい、ちょっと待つて」

ドア越しに大声でそう叫ぶ、リビングに引き返しハンコを手に急いで玄関に戻る。

顔なじみの運送屋のおじさんと適当な会話をし、荷物を受け取つた。

荷物はA4サイズくらいのダンボールでとても軽かつた。

品物は…「おめでとうござります。あなたが当選されました」ん？なんだろ？この、いかにも詐欺広告のような品名は。それに最近、懸賞に応募した覚えは無い。主人が応募したのだろうか？

あて名は「サカモト コキ」私宛てだ。

送り人は…書いてない…

リビングに戻るとソファーに座り、箱を目の前のテーブルに置き、しばし眺めた。

ん~危険な二オイ！もしかしたら爆弾かもしけない、ゆっくりと箱に耳を近づける。何も音はしなかった。

まあ、时限爆弾なんて最近じゃあんまり聞かないし…

そうよ、今じゃ細菌テロとか、爆弾なんてわざわざ作らなくとも

…。

ちょっと待て、と自分に言つ。

だいたい、こんな普通の主婦に誰が何の目的でそんなものを送りつけるのか？

ついつきまで、自分が考えていたことが、だんだん馬鹿らしくなり、ユキは箱を開けにした。

どうせ、開けたら何かの勧誘とかの冊子みたいのが、はいってるんでしょ…

ユキは箱を開けた。

箱の中には封筒があつた。そして、その封筒の中には、10数ページの冊子が入っていた。

やっぱり、詐欺関係の何かだ。ユキは少し落胆し、つまらなそうに、冊子を手に取つた。表紙には、こつ書いてある。

「あなたが決める2009年」

さて、何だらう、来年の干支をモチーフにした高額なお守りとかの広告だらうか？

だが、その中身は、高額商品の紹介や、宗教の勧誘などではなく、ユキの想像を遥かに超えたものだつた。

1ページ目

「あなたが決める2009年 基本要項」

例 サカモト ユキ 健康で幸せな日々

左から、名前、運気、特別事項となります。

名前はあなたが、2009年の運勢を決める、その方の氏名です。次に、運気とありますが、こちらは、＼＼＼＼＼の5段

階で評価してください。

特別事項、こちらはその方に起る、09年の重大な事をお書きください。

こちらは、スペースが限られていますので、多くは書けません、ご注意ください。

また、こちらの欄が空白ですと、その方は09年に存在しないことになります。

その場合、その方は、09年を迎えることなく、亡くなりますので、特にご注意ください。

お名前を見てもピンとこない方、特に印象にない方などは、（特になし）と書くことをオススメします。

この冊子に、あなたが、書き込んだ、運気の評価と特別事項の内容により、その方の09年が決定いたします。お手数をおかけいたしますが、きちんとお考えの上、3日以内に全項目を埋め、こちらが用意した封筒に入れ、切手を貼らずに、郵便ポストへ投函下さい。

一体、誰のいたずらだろうか？

こんなものの存在など聞いたこと無いし、だいたい紙に書くだけで人間の運勢が決まるなんて、そんなことあるわけない。

馬鹿げてる、と思ったが、主婦のユキは暇だった。

少しだけ書いてみようかという気になり、ページをめくつた。ポストに投函しなければ誰にも見られることは無いだろうし…

だが、次のページをめくつた瞬間から、ユキは何かに憑りつかれたかの様に、その冊子が求める作業を進めた。

3ページ 家族

1番目、私の父だ。父は、半年前から、病気で入院していた。

もしも、これが本物で本当に効力があるなら…

そう思い書き込んだ。

(シンドウ タケオ 病気が治り、幸せな一年を過ごす)

次は母だ。母は、父の看病で疲れているだろうし、そういえば父が回復したら、父と海外旅行に行きたいと、この間、病室で言つていた。

(シンドウ マサコ シンドウ タケオと海外旅行に行く)  
特別事項の欄は大きくなく、あまり長い文だと、入りきらない、母の欄が、旅行だけなのはどうかと思ったが、よく考えれば、父が幸せなのだから、当然母もそうであろう。

そのまま次の名前に目をやつた。

シンドウ シンジ 弟だ、2年前、俳優になるとか言いだして、大学を退学した。

そのあと劇団に入ったので本気かな、と思つてたら、すぐに、あきらめ、今じや実家で「ロロロロ」と一ート生活をしている。

(シンドウ シンジ 適職を見つけ、眞面目に働く)  
よし。これでいい。

家族3人について書いたところで止めようと思つた。

確かに、今書いたことが現実になれば、それは素晴らしい事だ。でも、ありえない、父は余命1年と宣告されているし、あの弟が急に眞面目になるのも期待できない。ユキは左手のボールペンを置こうとした。しかし、手が動かない。そのまま、手が勝手に動き、次の空欄にペン先を置いた。次に名前があったのは、主人の両親や親戚などだった。

体が勝手に動いた。しかし、勝手に手が動いて、書き込む訳ではない、

ユキが書こうと思つたことだけ、書きめた。だが、書くのを止めようとすると、体が自分の意思では無い動きをした。

私じゃない力が、存在している…

もしかしたら、これは本当に効力があるのかもしれない…

そこから、一人ずつ、ユキは慎重に考え方書き込んでいった。

親戚のヨシオおじさんは、子供の頃、よくお小遣いをくれた。

最近のおじさんの様子は知らなかつたが、競馬好きだったのを思い出し、（競馬で大儲けする）と書き込んだ。

さらにページが進むと、学生時代の同級生の名前が出てきた。  
ニシハラ エリコ、私の高校時代からの親友だ。エリコとは、大学も就職先も一緒に、私が職場の同僚と結婚するまでは、本当の姉妹のように、ほぼ毎日一緒に過ごしていた。

結婚してから、私が会社を辞めたのもあって、流石に会う機会は減つた。でも、週に一度は必ず、エリコと長電話をする。

そういえば、エリコの最近の口癖は、「私も結婚したい」好きな人はいるけど、絶対無理」とか言つてた。

そうだ、これを書けばいい。エリコもついに幸せになれる。

（ニシハラ エリコ 意中の人と結婚し、幸せに）

エリコのように、私がよく知る人物については、その人を思つて、どうしたら幸せか、それを考えて、思いついたものを書いた。でも、だんだんと名前では思い出せない人物が増えてきた。この辺りから、最初のページにあつた（特になし）を多用した。

（特になし）が大半を占めるようになり、残りページもわずかになつた。

ちょっと待つた！こいつ…

そのページには大学時代にバイト先で知り合つた人達の名前が書かれていた。

タカハシ ケンイチ 私が初めて付き合つた男だつた。

居酒屋のバイトをはじめたとき、色々と教えてくれたのが、こいつで、今思つと、（私が馬鹿だつた）の一言。あんな奴に一目惚れ

してしまい、私は体を許した。

忘れもしない、隣で寝てたあいつは、寝言でアキコって別の女の名前を言った。

私がこいつそり、あいつの携帯を見ると、アキコだけじゃなく、トモミにココロミキ…

ああ～！もういいや、こんな奴。

（タカハシ ケンイチ × 最悪な一年 とにかく最悪）

ふ～、でもこれが本当になるなら、最悪な一年つて、相当ひどいだろうな…

次のページをめくつた。そのページの名前の横すべてに（特になし）が書かれた。

本当に誰だか思い出せない。ひょっとすると、ずっと通つてた、美容院の美容師とか、名前は知らないけど、お世話になつた人かも…

まあ…（特になし）なら問題ないでしょ。

そういえば、私と主人の名前だけ冊子には無い…

う～ん、さすがに、自分の運勢は変えられないのかな…

まあ、いいか、自分の未来がわかつても面白くない？…かな？すべての項目を埋め冊子を閉じた。すると、ペンを置けたし、その場を離れることができた。

不思議な時間であった。

翌日、指示通り、封筒に入れ、切手を貼らずに、ポストに投函した。

それから数ヶ月し、09年を迎えた。

ユキは、数ヶ月前の、あの冊子のことを、すでに忘れていた。それは、あの時間が夢のような、不思議な時間だったせいかも知れない。

ユキがその存在を思い出したのは、正月が終わった頃、母から父

の病気が奇跡的に回復に向かっているという電話を受けたときだつた。

09年

父の病気は春先に、完治し、無事に退院した。

しばらくして、ヨシオおじさんが競馬で大儲けして海外旅行をプレゼントされたと、物凄く弾んだ声で母から電話あつた。さりに、弟のシンジが、最近始めたバイト先で才能を認められ、契約社員になつたと聞いた。

あの冊子に書いたこと、全部が、本当になつた。

本物なら、家族の誰かが宝くじに当たるとか、もつと大きな事を書いておけば…

ちょっとびり損をした気分だ、でも、すべて私の望み通り、みんな幸せになつたんだから、本当に不思議だけど、もしかしたら、神様のプレゼント? そんな、メルヘンチックなことを考える。だが、そういう想ひの仕方ない、本当に不思議なことが起きていいのである。そういうえば、あとは何を書いたつけ? ノキは書いたことを思い出す。

ヒリコ、そうだヒリコ!

この流れならすべて本当になるだらう、きっとヒリコも誰かと結婚する。

そうしたら、結婚式だ、よし今から洋服を用意しておー。しかし、ヒリコから何も変わつた話はないまま、時は過ぎていつた。

09年もあと1ヶ月しか残されていない、というのこ、まだ、ヒリコから結婚の話は聞けていない。

数ヶ月前から、電話で（結婚は、どうなの? しないの?）とか聞きたすぎたのも…

それが原因で、何かおかしくなつて、エリコが結婚できなくなつたのかも知れない、それならば、申し訳ないことをしたなあ。

エリコは結婚出来ない、私のせいかな…

そのまま、09年が、あと10日で終わりという日になつた。仕事を終え、夫が帰ってきた。

「おかえり」

「うん…」

どうも元気がない、いつもなら「あ～腹減った」とか言って、冷蔵庫に向かつて行き、缶ビールを開けるのに。

「どうかした?」

「いや…その…」

どうも歯切れが悪い、いつもと違う…

「大丈夫? 疲れてるんじゃない?」

夫は、それは違う、といふかのように、首を横に振つた。

「その…ユキ、すまん、別れてくれないか…」

夫の口から想像もしていなかつた。言葉が飛び出した。

私は、その場に崩れた…

「なんで、どうしたの…」

「実は、この年で、馬鹿みたいだけど、本気で好きな人が出来た。」

「…」

まさか…

「本当に最低だと思うけど…お前も、よく知つてる奴だ…」

「H…エリコ? ジやないよね」

夫は若干驚いた様な顔をしたがすぐにいつ言つた。

「なんだ、バレてたのか…」

バレてなんてない。そんなの知らない…

でもエリコは今年結婚するつて…（意中の人と）

嘘…、そんな…

その瞬間、私が結婚を報告した際にエリコが言つた言葉が、蘇つ

てきた。

「嘘！部長と結婚するのーえー私も狙つてたのに、なんでもうと早く言ってくれなかつたの？」

私は親友のエリコにも、サカモト部長との交際は秘密にしていました。でも、まさか、まだエリコが夫を想い続けていたなんて…

ゆつくり立ちあがり、放心状態で、すべての原因を生み出したあの場所に座り込んだ。

TVから、ニュースキャスターが原稿を読む声が聞こえてきた。

今日、午後6時頃、東京のA区の工事現場で、作業をしていた29歳の男性が、横転したトレーラーの下敷きになりました。男性はタカハシケンイチさんで、現在も意識不明とのことです。

どこかで聞いたことのある名前だつた…

全部私が決めたこと…でもこんなことになるなんて。

(完)

## (後書き)

### 4 作目

10/26 ちょっと修正しました。

評価、コメントいただけた幸いです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3557f/>

---

おめでとうございます。あなたが当選されました

2010年10月8日15時34分発行